

インフロニア・ホールディングス
26年3月期 第1四半期アナリスト向け決算説明会
【プレゼンテーション資料】



August 8, 2025

目 次

1. 決算サマリー
2. FY25 1Q業績＜各セグメント別＞
3. 三井住友建設TOBについて
4. IGアリーナ運営開始について
5. 豊橋アリーナ建設開始について
6. ウォーターPPP4.0の案件について
7. ガバナンス改革について
8. インフロニアの株価・IRの取組みについて

1-1. 決算サマリー

- FY25 1Qは、売上高**1,916**億円、事業利益**73**億円、EBITDA**171**億円、当期利益**81**億円
事業利益は、過去最高と同水準。売上高・EBITDA・当期利益においてHD設立後、**過去最高**を達成
- FY25通期計画は、現時点では修正はしていないが、売上高**8,963**億円、事業利益**545**億円、EBITDA**918**億円、当期利益**334**億円。**売上高・事業利益・EBITDA**は、**過去最高**の見込み
(前期比 売上高 + **488**億円、事業利益 + **60**億円、EBITDA + **91**億円、当期利益 + **10**億円)
- 三井住友建設を合算した計画数値については、TOB成立後、9月末に開示予定

	FY24 1Q実績	FY25 1Q実績	FY25通期計画 (修正なし)
売上高	1,783億円	過去最高 1,916億円	過去最高 8,963億円
事業利益	38億円	過去最高水準 73億円	過去最高 545億円
EBITDA	121億円	過去最高 171億円	過去最高 918億円
当期利益	28億円	過去最高 81億円	334億円
配当額	—	—	60円以上

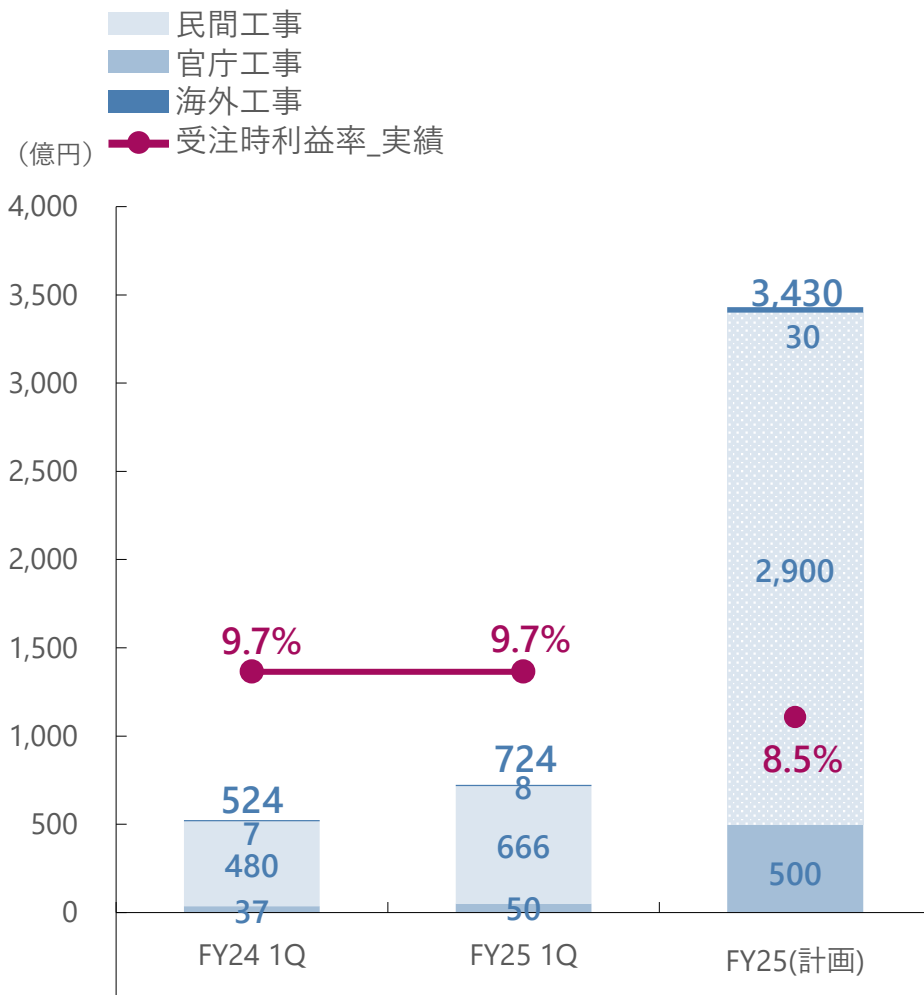
1-2. 決算サマリー

会社	セグメント	決算サマリー
インフロニア		• FY25 1Q実績は、前年同期比で増収増益。売上高・EBITDA・当期利益はHD設立以来過去最高事業利益も過去最高水準で推移。通期計画達成に向け、順調に進捗 • 当期利益は投資資産の評価益計上により前年同期比で53億増加（前年同期比289%増）
前田建設	建築	• 1Q実績は、採算性が高い工事の進捗により前年同期比で増収増益。営業黒字を達成 • 手持ち工事の順調な進捗と新規受注工事により、売上高・利益額ともに通期計画を上回る見込み
	土木	• 1Q実績は、今期完成の大型案件が少ないため利益が減少し、前年同期比で増収減益 • 施工高の規模等により重点現場を選定し、進捗向上及び設計変更の獲得額向上により、通期計画達成を見込む
	インフラ運営	• 1Q実績は、愛知道路コンセッション、大阪工業用水コンセッション等のコンセッション事業が順調に進捗し、前年同期比で増収増益 • コンセッション事業の着実な進捗、菰野ヴィラの売却により、通期計画達成を見込む
日本風力開発		• 1Q実績は、前年同期比でほぼ横ばい • 前期から期ずれとなった案件の売却により、通期業績は増収増益を見込む
前田道路	舗装	• 1Q実績は、売上高はほぼ横ばいながらも売上総利益は前年同期比で増益 • 受注時利益率の確保や適正な販売単価の維持により通期計画の達成を見込む
前田製作所	機械	• 1Q実績は、一部産機製品及び建機商品の販売台数減少により、前年同期比で減収 • 足元の受注状況と、建機商品の整備・レンタル需要から通期計画達成を見込む
その他		• 1Q実績は前年同期比で増収増益 • 売上高および利益額において通期計画達成を見込む

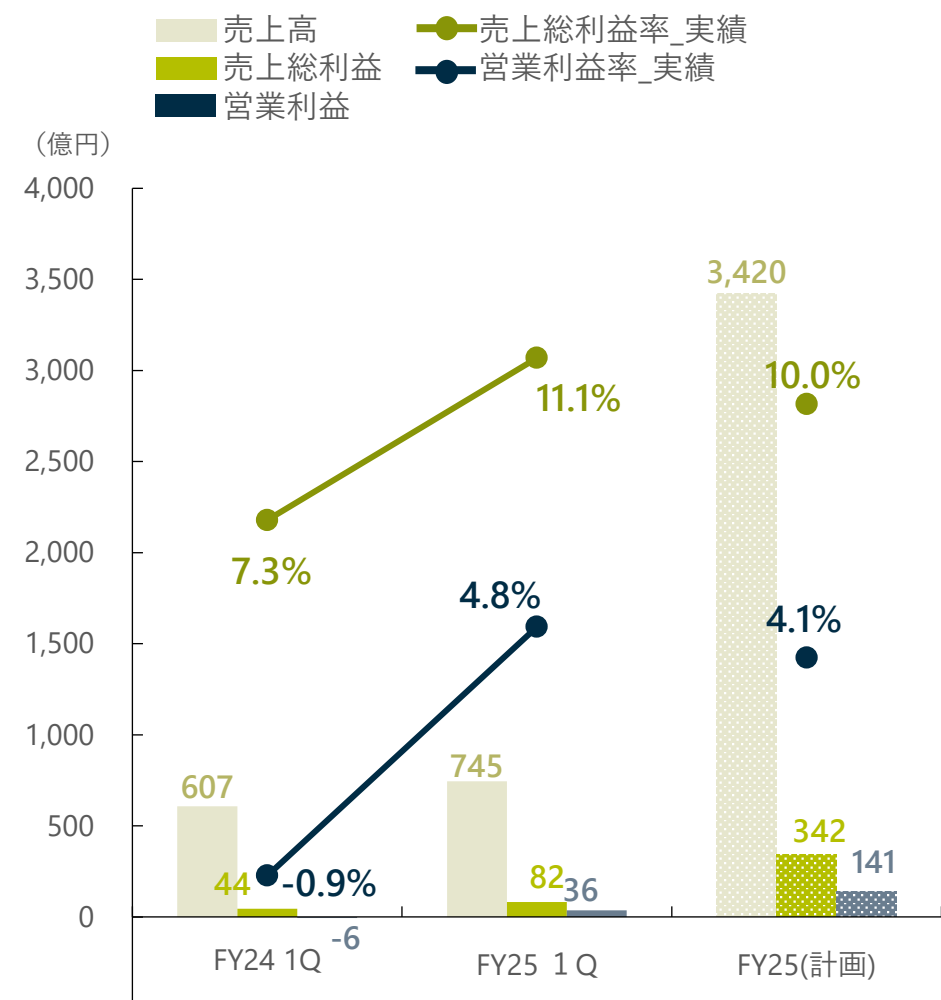
2-1. FY25 1Q業績＜建築セグメント＞

- 1Qは、受注時利益率9.7%と**高水準**を達成。
計画通りに受注できており、通期受注高の計画値3,430億円も達成する見込み
- 採算性が高い工事の進捗により、売上・利益ともに向上し、1Qの**営業黒字を達成**。
手持ち工事の順調な消化と新規受注の進捗により、**売上高・利益額ともに計画値を上回る見込み**

受注高・受注時利益率の推移



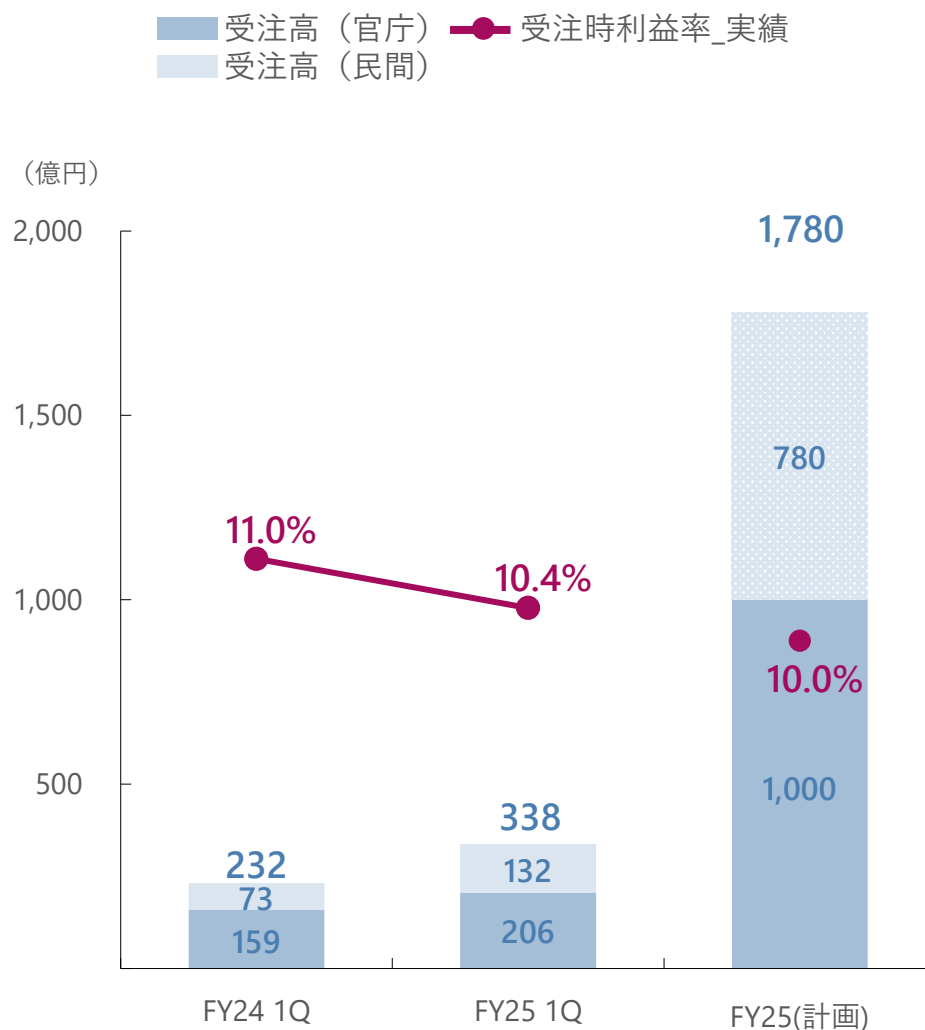
売上高・売上総利益・売上総利益率の推移



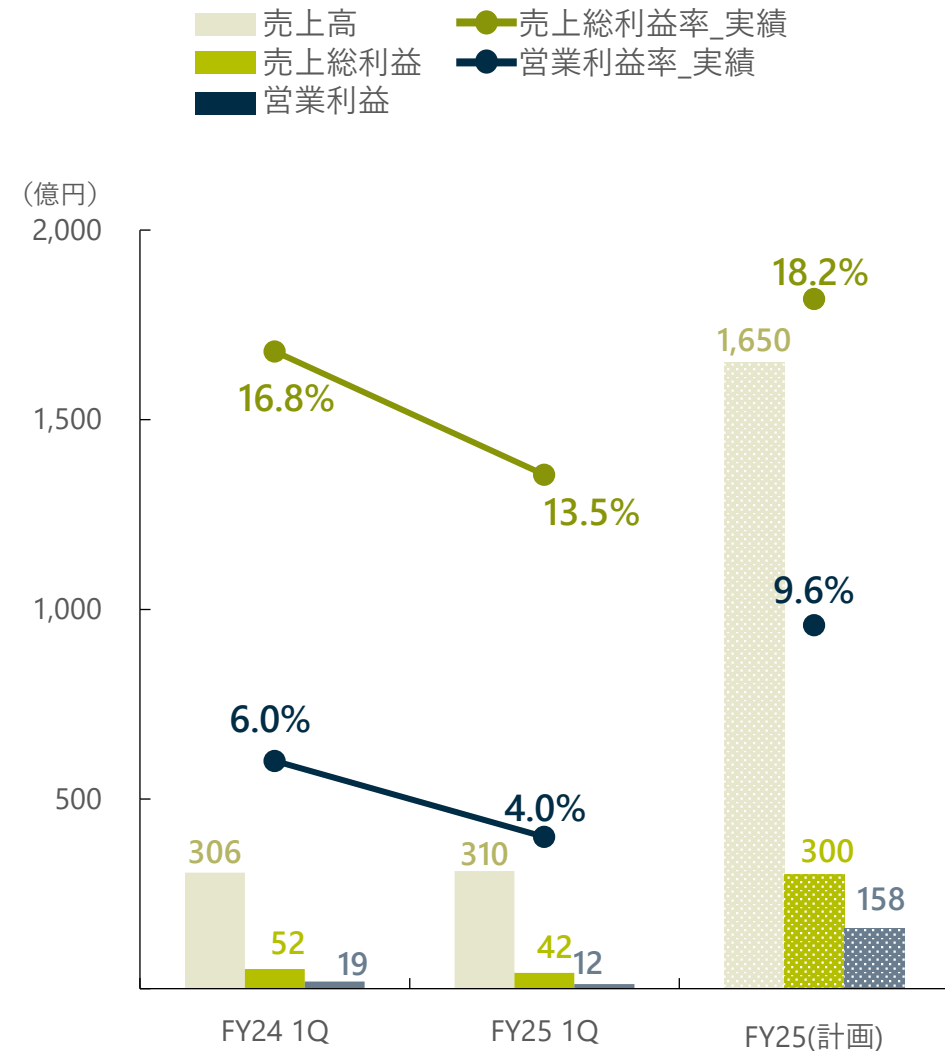
2-2. FY25 1Q業績＜土木セグメント＞

- 受注は官民共に堅調に進捗。受注時利益率も**高水準を維持**。
2Q以降出件の大型工事・特命工事の受注確保、設計変更の獲得により通期計画達成を見込む。
- 売上高の伸びは順調**だが、前年同期比で今期完成の大型案件が少ないため利益が減少。
重点現場を選定し、工事進捗向上・設計変更の獲得額向上により、通期計画達成を見込む。

受注高・受注時利益率の推移



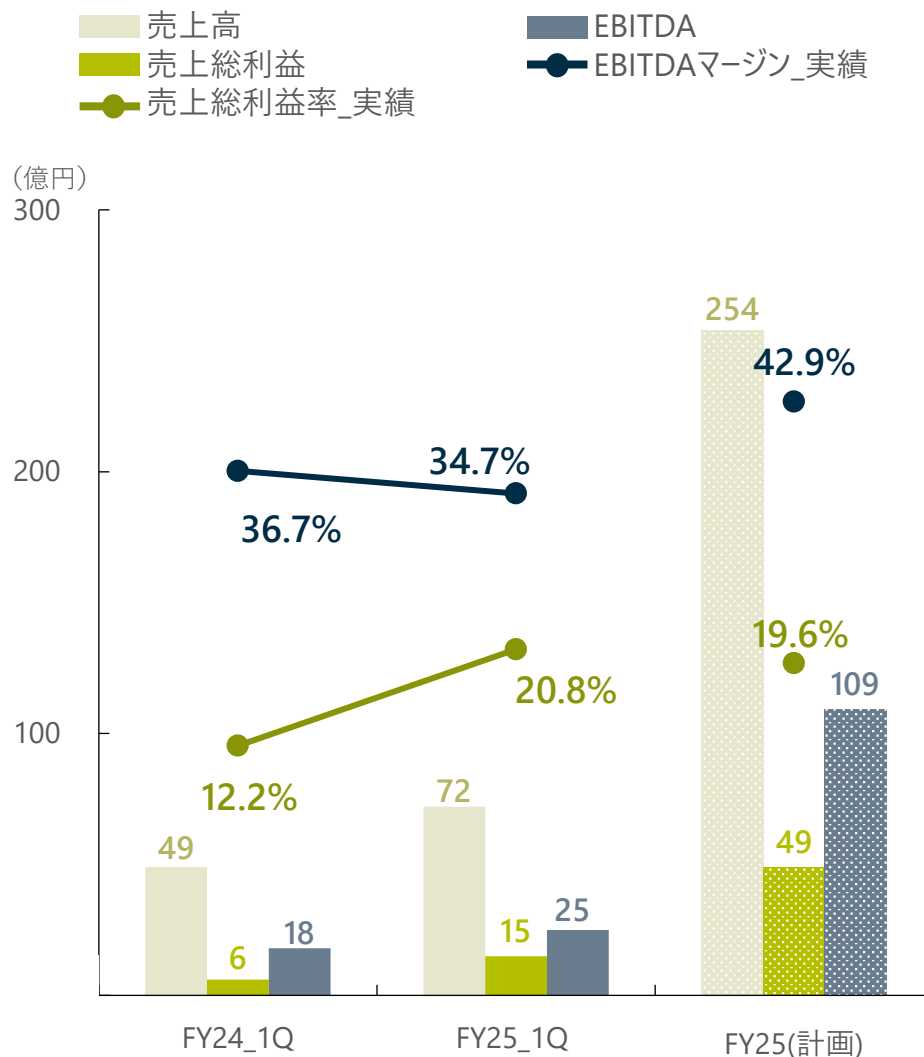
売上高・売上総利益・営業利益の推移



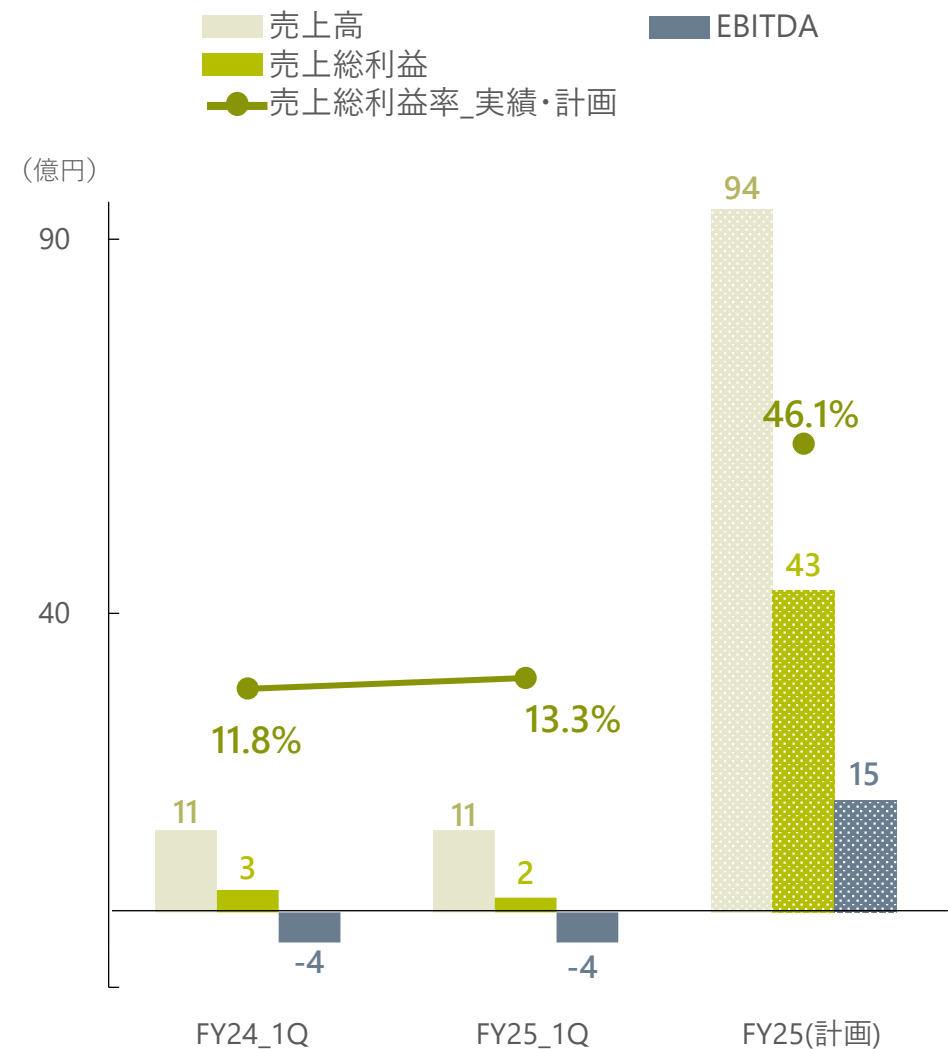
2-3. FY25 1Q業績＜インフラ運営セグメント＞

- 前田建設グループは、コンセッション事業が順調に進捗し、前年同期比で**増収増益**。
コンセッション事業の順調な進捗、菰野ヴィラの売却により、通期計画達成を見込む。
- 日本風力開発は、前年同期比でほぼ横ばい。案件の売却等により、通期計画達成を見込む。

前田建設グループ 売上高・売上総利益・EBITDAの推移



日本風力開発 売上高・売上総利益・EBITDAの推移



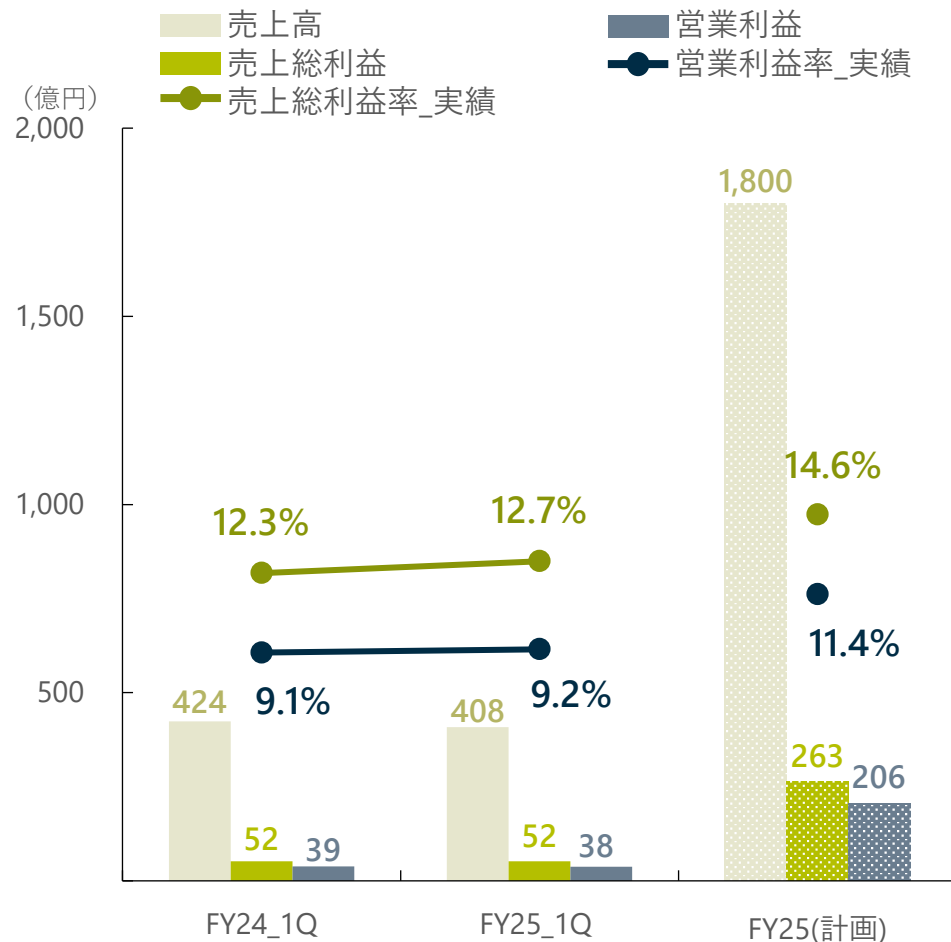
2-4. FY25 1Q業績＜舗装セグメント＞

舗装

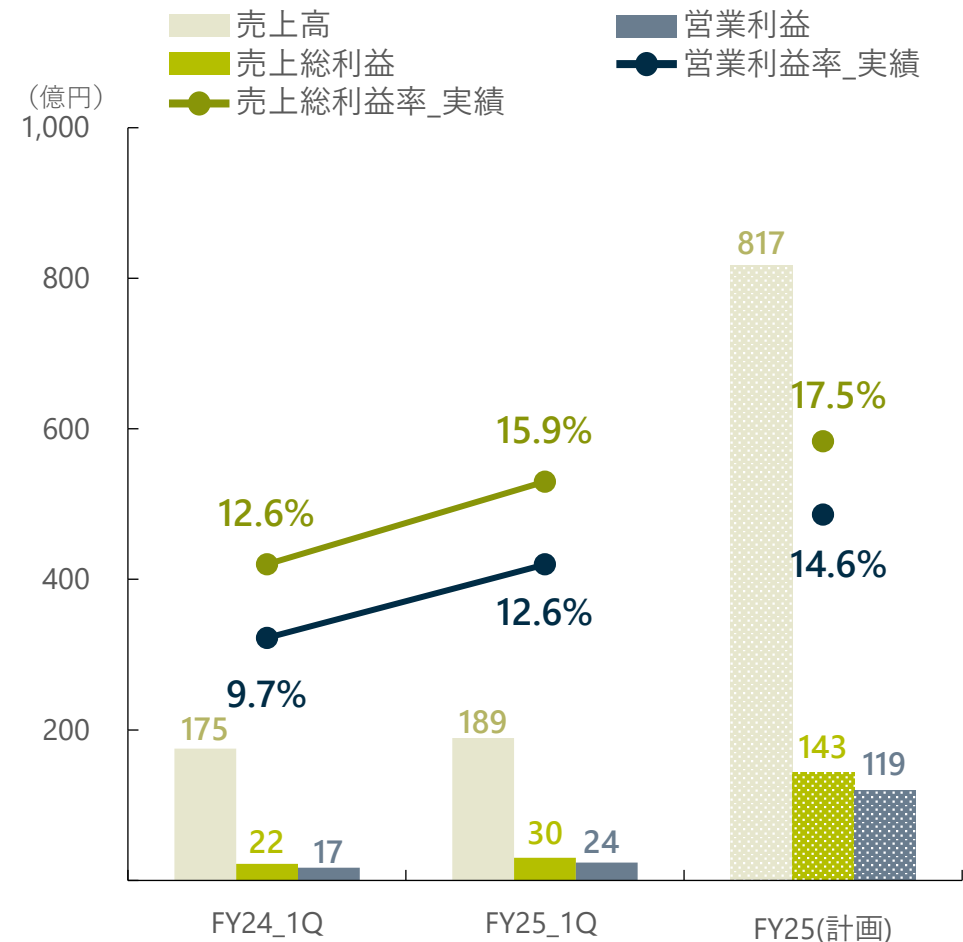
8

- 前田道路連結では、受注時利益率の確保や適正な販売単価の維持により、通期計画達成を見込む。
- 建設事業は、週休2日制の実施により、1Qでは減収だが、受注時利益率の確保に加え、受注後の利益率向上を図り通期計画の達成を見込む。製造販売事業は、前年同期比で**増収増益**。外部環境に応じた適切な販売単価を設定することで通期計画の達成を見込む。

建設事業



製造販売事業

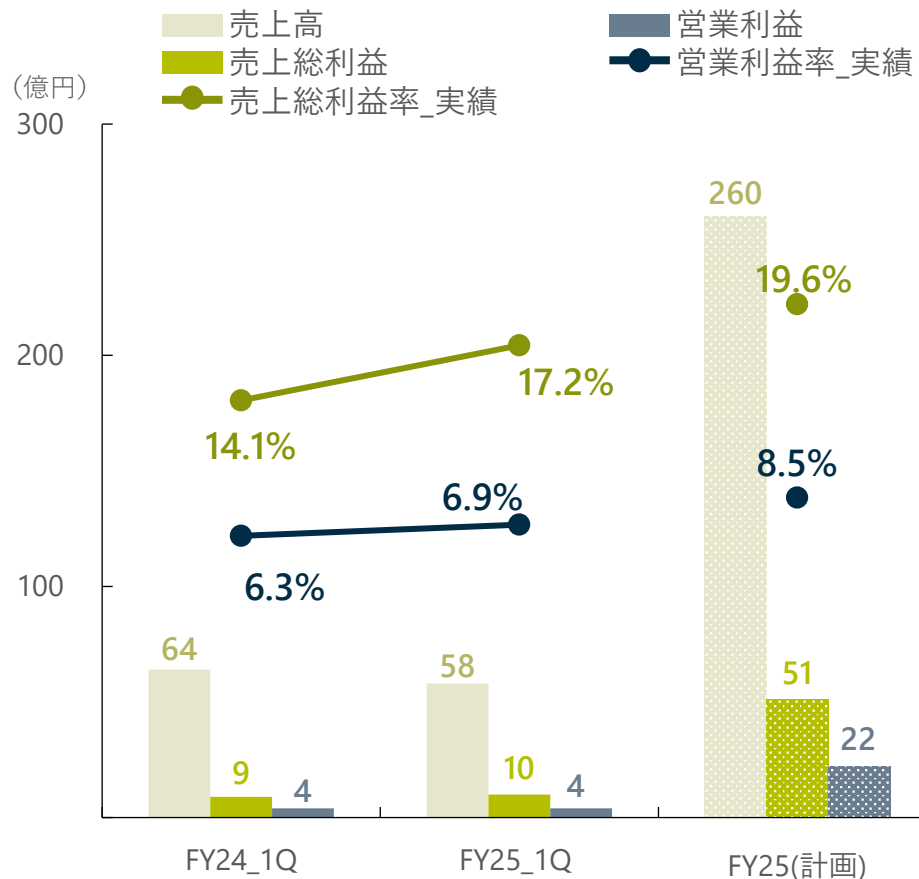


※セグメント毎の営業利益算出時に本支店の一般管理費は控除していない

2-5. FY25 1Q業績＜機械セグメント＞

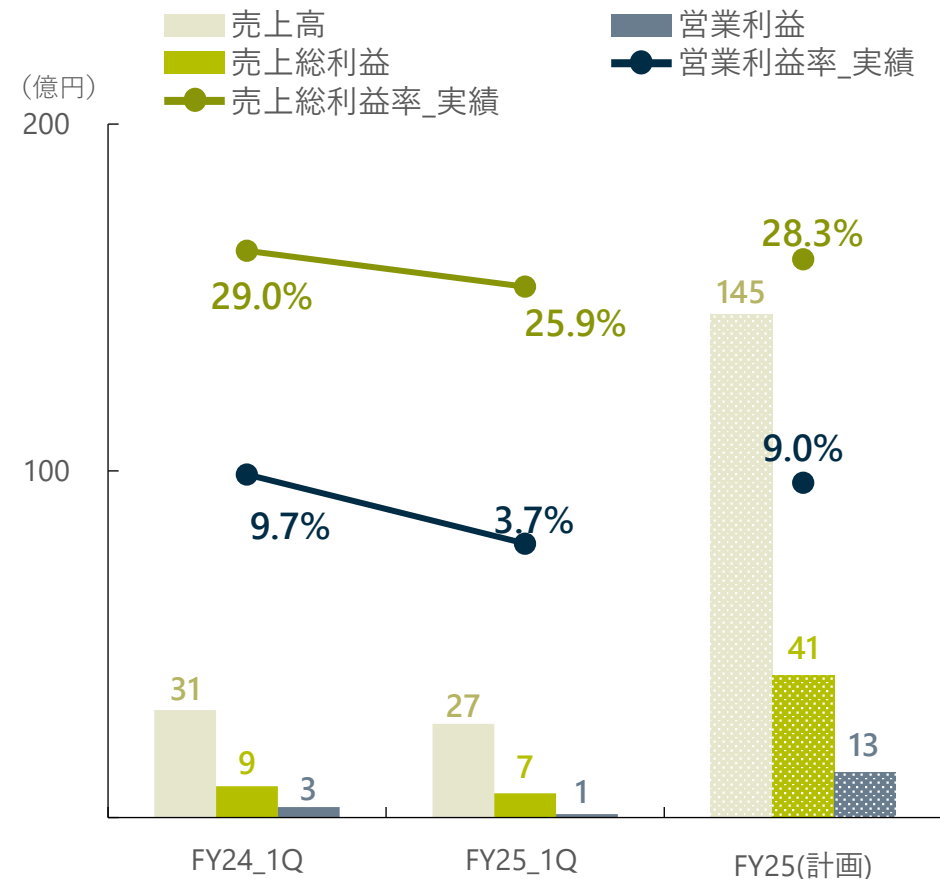
- 1Qは、建設機械においては適正な価格転嫁により**増益**。
産業・鉄構機械等では一部産機商品の商流変更による販売台数減少により減収減益。
- 建設機械はフォークリフト事業への領域拡大によるシナジー効果、産業・鉄構機械等では自社製品の販売促進により通期計画達成を見込む。

建設機械※1



※1 コマツ製品の販売・サービス・レンタルを主体とした事業

産業・鉄構機械等※2

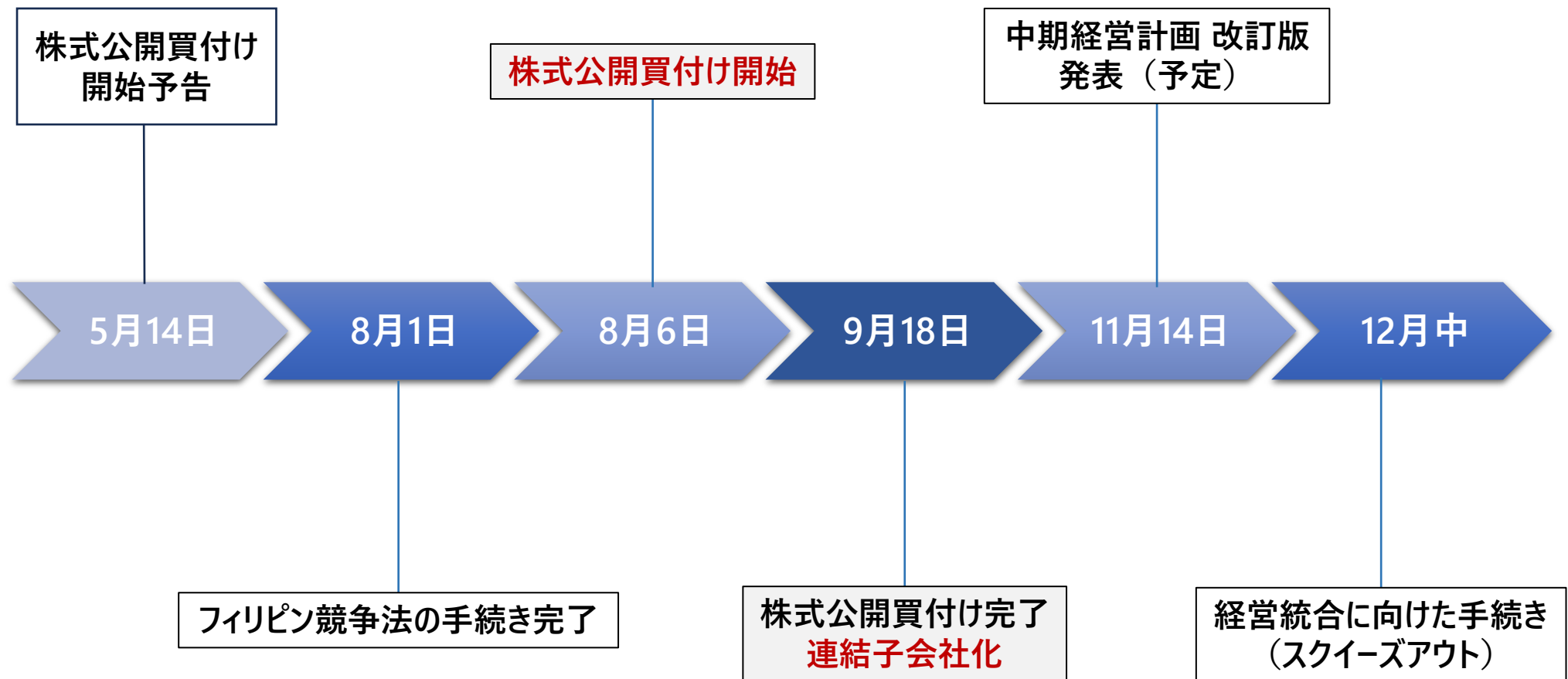


※2 クレーン等自社製品の設計・製造・販売を主体とした事業

※セグメント毎の営業利益算出時に本支店の一般管理費は控除していない

3. 三井住友建設 TOBに関する今後のスケジュールについて

- 本日（8月8日）時点では、三井住友建設に対する株式公開買付け（TOB）を実施中。
9月18日に買付けを完了し、連結子会社化の予定。



4. IGアリーナ運営開始 – 2025年7月13日にグランドオープン –

11

最大収容人数1万7千人、天井高30m、スポーツ観戦および音楽鑑賞に適したオーバル型とコンサートに適した馬蹄型を融合させたハイブリッドオーバル型アリーナ。



今後のイベント予定

大相撲名古屋場所を皮切りに今年のイベントは既に多数決定しており、高い稼働率を維持

(アーティストコンサート、格闘技等：11件以上決定済)

公式HP : ig-arena.jp

➤ 観客に加え、主催者にとっても快適で利便性の高い施設として高い評価を獲得

- 競技面へ直接11tトラックが搬入可能 ➤ 興行の準備・撤去時間を大幅短縮可能に
- 楽屋や会議室が大幅に増加 ➤ ゲスト毎に部屋を割当可能になり、興行主評価UP

「B.LEAGUE イノベーションパートナー」として今後のアリーナ構想に向けて

◆ IGアリーナ視察会・講演会を開催 (7/10)

招待者	B1/B2/B3クラブ代表者、自治体担当者 97名を招待
趣 旨	B.LEAGUEイノベーションパートナーとしての取組の一環として、B.LEAGUEの今後のアリーナ構想や地方創生の実現に向けて、自治体や各クラブとの関係構築を図る。

5. 豊橋アリーナ建設開始

これまでの経緯

- ・令和6年9月27日
豊橋市と「多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業」の契約締結
- ・令和7年5月15日
議員提案による「多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業」の継続の賛否を問う
住民投票条例が可決
- ・令和7年7月20日
賛成10万6,157票、反対8万1,654票となり、賛成多数で事業継続へ

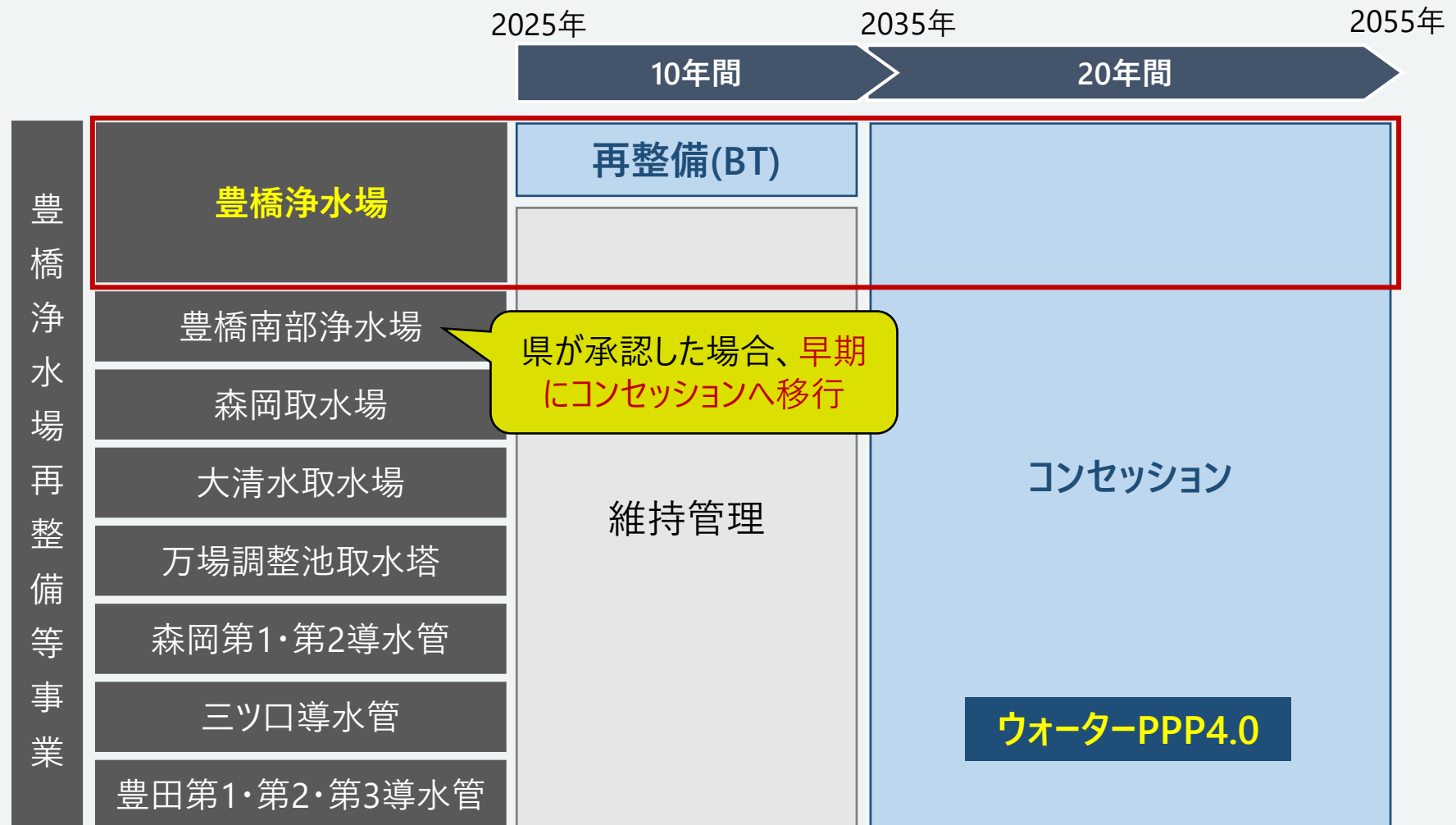
➡ 今後は、市と協議をして進めていく



6. 豊橋浄水場再整備等事業 -ウォーターPPP4.0-

POINT

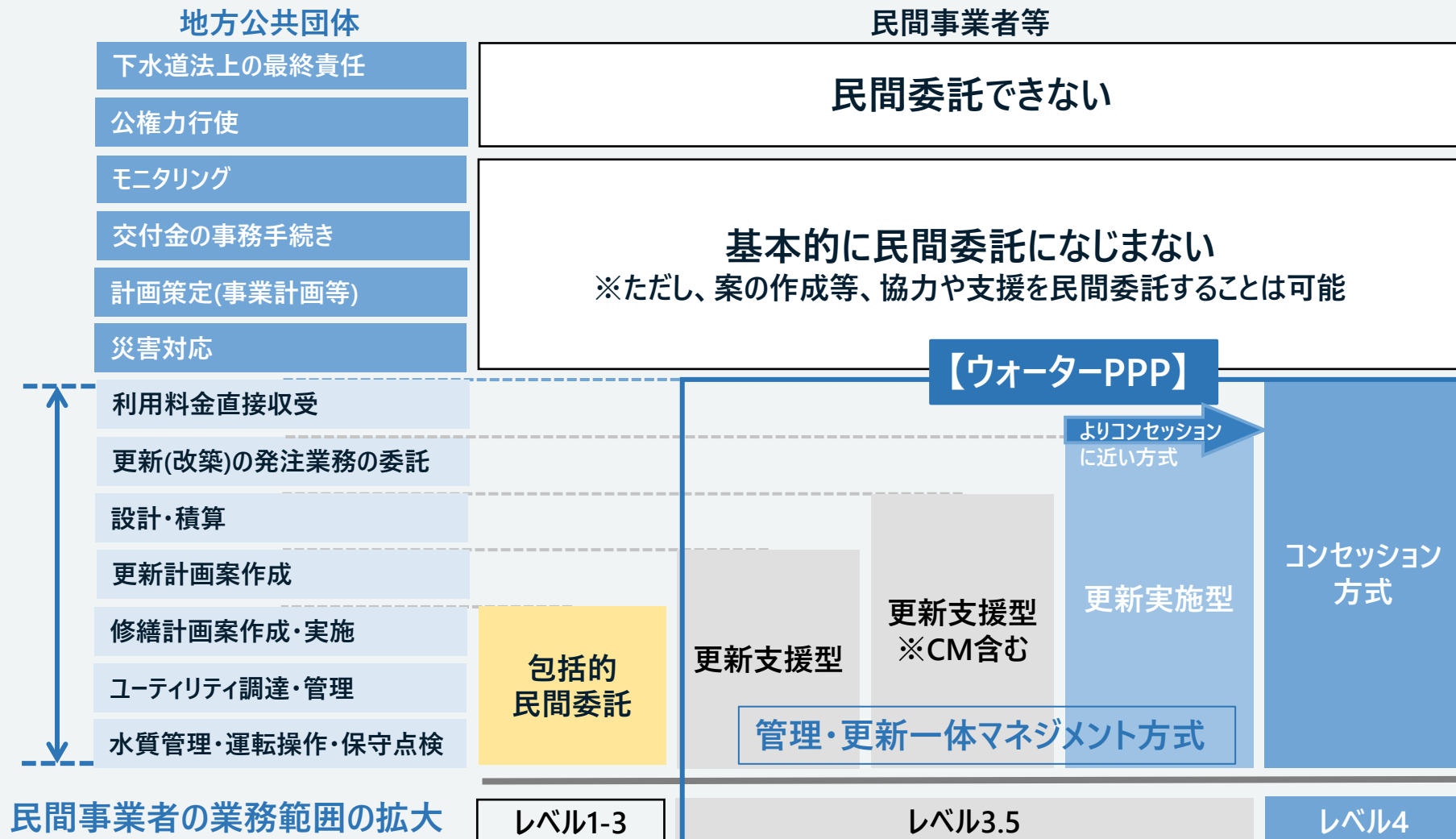
- 内閣府と国土交通省が制度化したウォーターPPPの中で、最も民間事業者の裁量が確保される**ウォーターPPP4.0へ段階的に移行** (ウォーターPPPについては次頁参照)
- また、**水道事業で日本初「BT+コンセッション」**のスキームを採用
- 本案件は、事業提案書が8月29日締切、11月に落札者決定・公表のスケジュール



【参考】ウォーターPPPが制度化され、市場拡大へ動き出す

● ウォーターPPP とは

上下水、工業用水道におけるコンセッション方式への段階的な移行に向けた、長期契約で管理と更新を一体的にマネジメントするための官民連携方式の総称



7. ガバナンス改革について

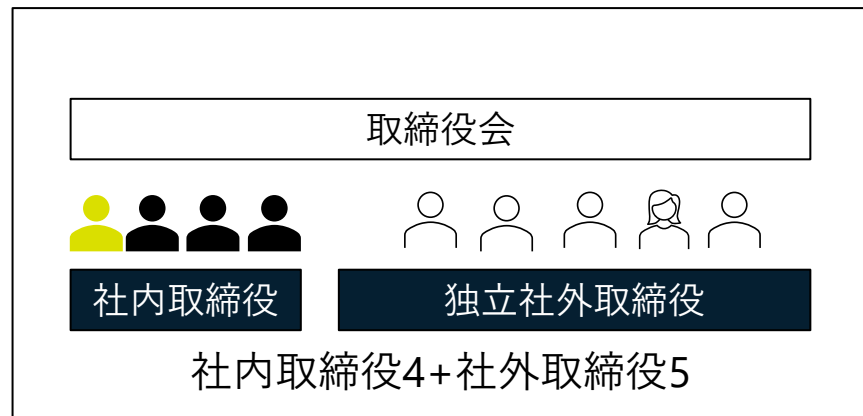
インフロニア 設立時

- 総合インフラサービス企業を実現するためには、投資及びM&Aが成長エンジンのひとつ
- 意思決定のスピードが重要であると同時に、意思決定の透明性・公平性を確保するガバナンスが必要
- 会社法上、**取締役の監督機能の発揮**・執行側への**大幅な権限移譲**が実現可能となる**指名委員会等設置会社**を採用

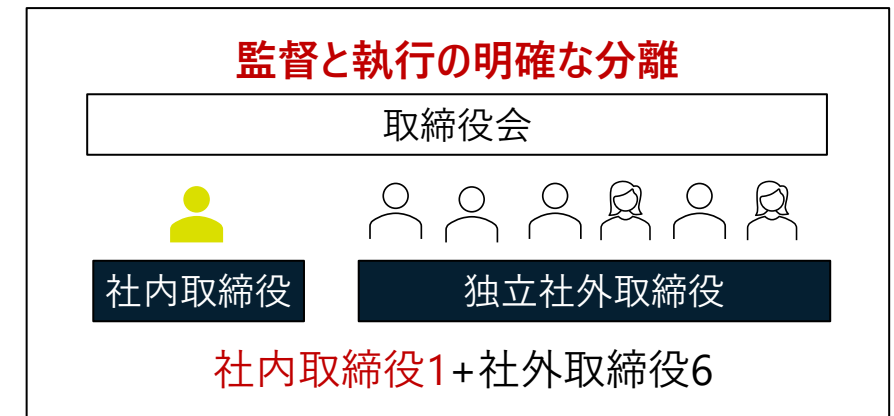
ガバナンス 改革

- グループ全体の成長をさらにドライブするためには、**インフロニアの戦略を事業会社**に**一気通貫で通すガバナンス**が必要と判断
- **執行役はグループ全体の機能別**に設定して**権限拡大**、**取締役会はCEO+社外取締役**として監督機能を強化

これまで

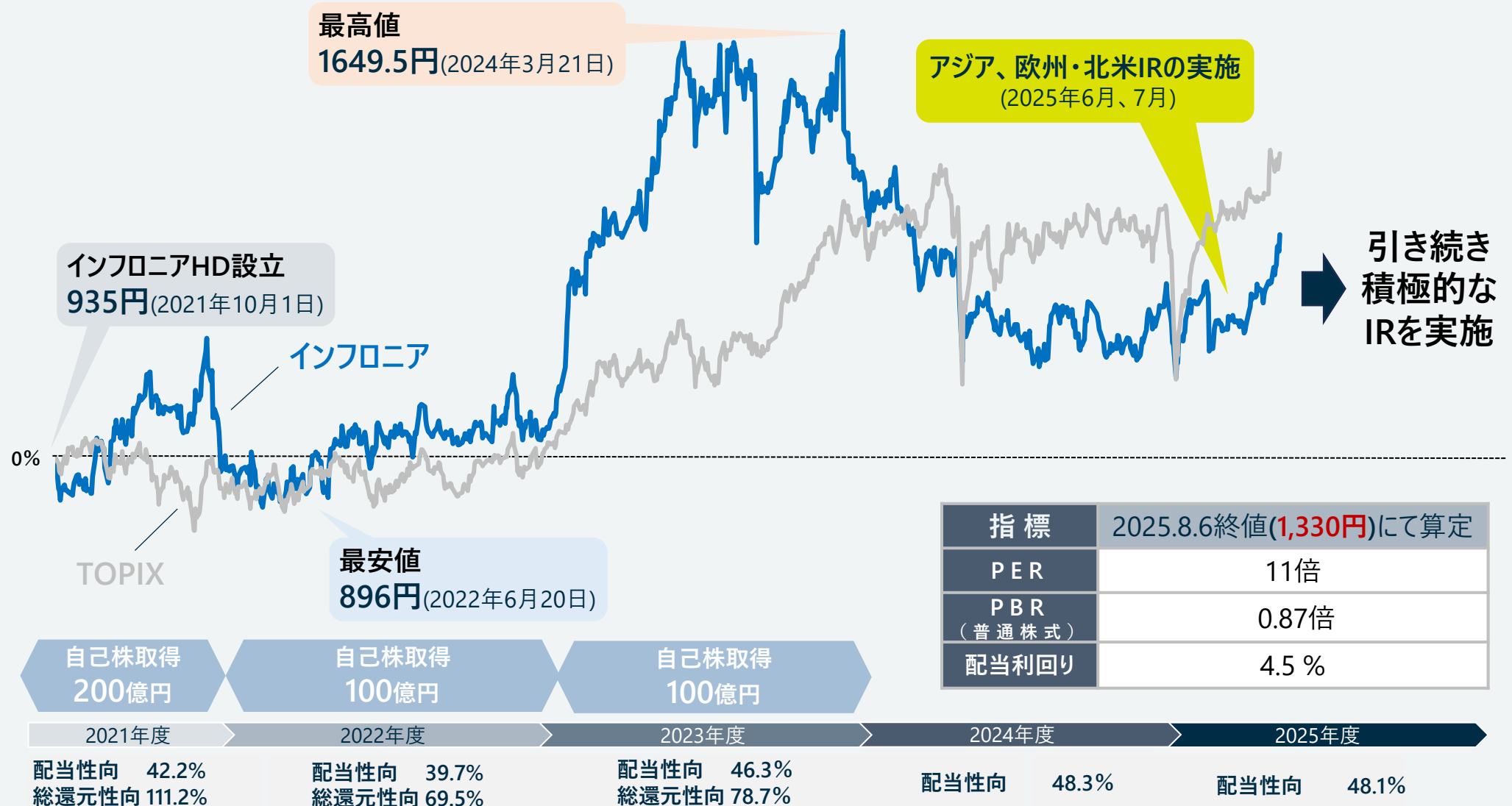


FY25 2Qから



8. 株価の推移とIR予定

- 中期経営計画に定めた資本戦略の実施および業績目標達成により資本効率を意識した経営を進める
- 国内・海外、機関投資家・個人投資家問わずIRを継続的に実施し、戦略への理解深耕を図る



※2021年10月1日時点の株価を基準(0)とした、株価の伸び率を%で表示

【参考】社債型株式発行による財務指標等への影響

- 社債型種類株式は普通株式とは区別され、PBR算定時の純資産からは除く
- ROE・EPSは、優先配当分差し引かれる為、普通株主に帰属する当期純利益は減少

(単位のないものは億円)

財務指標	算定式	FY25通期見込
ROE (普通株式)	$\frac{\text{当期純利益} - \text{優先配当}}{\text{自己資本} - \text{社債型種類株式に係る純資産}} \quad (\text{※二期平均})$	$\frac{334 - 26^{\text{※1}}}{((5,191-968) - (5,255-968))/2} = 7.2\%$
EPS (普通株式)	$\frac{\text{当期純利益} - \text{優先配当}}{\text{発行済株式数 (普通株式)}}$	$\frac{334 - 26^{\text{※1}}}{24,797\text{万株}} = 124.2\text{円}$
PBR (普通株式・1Q時点)	$\frac{\text{時価総額 (普通株式)}}{\text{自己資本} - \text{社債型種類株式に係る純資産} - \text{優先配当} - \text{新株予約権}}$	$\frac{1,330^{\text{※2}} \times 27,485\text{万株}^{\text{※3}}}{5,204 - 968 - 26^{\text{※1}} - 26} = 0.87\text{倍}$
D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{自己資本 (種類株式を含む)}}$	$\frac{4,832}{5,255} = 0.92\text{倍}$

自己資本 = 【資本】親会社持分 合計

※1 社債型種類株式配当金 26億円

※2 株価は2025.8.6終値にて算定 (1,330円)

※3 自己株を含む

【注意事項】

本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。
また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む
Challenge the status quo

 **INFRAONE Holdings Inc.**